

◇ 丹 沢 山

2014年11月4～5日（火～水）

岡本単独

丹沢は、東京宅との行き帰りでいつでも行けると思いながら、つつい先延ばしになっていた。また、人と蛭が多いことも、何となく気分を億劫にさせる。今回、天気予報では4～5日は快晴とのことだ。蛭ヶ岳小屋に電話をいれると、この日は空いていると言う。人と蛭なし、天気よし、で漸く重い腰を上げることになった。

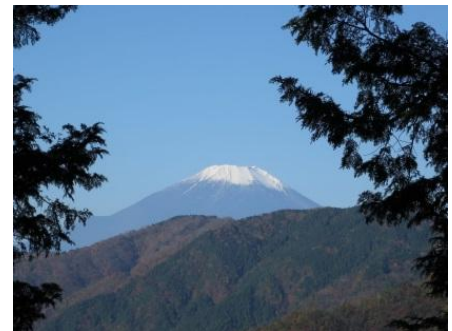
5時半過ぎに出る。まだ、環八は混んでいない。そこさえ混まなければ後は快調そのものだ。1時間半もかからず登山口まで来る。今回は初めての丹沢なので、ポピュラーなコース、大倉登山口から丹沢山を目指し、丹沢最高峰の蛭ヶ岳まで行くことにした。

登山道は、多くの人が登るだけあり、道標もコースも整備されており、道を間違える心配もない。所々に茶屋があり、夏だと水もそこで補給するつもりなら、荷物も最小限に出来る。最初は、登りもそれ程急でなく、ルンルン気分だ。所々紅葉も見られるが、殆どが植林された針葉樹で、樹林帯の中を歩くため、少し退屈な気分だ。

見晴茶屋に着く。そこから相模湾が見えるが、名前ほどのことはない。茶屋を過ぎると急に登りがきつくなる。安直気分も吹っ飛び、汗をばとばと落としながら、ひたすら地面を眺めながら登る。二つ目の駒止茶屋を過ぎると少し傾斜が緩くなり、樹林帯の間から少し紅葉らしきものが見える。

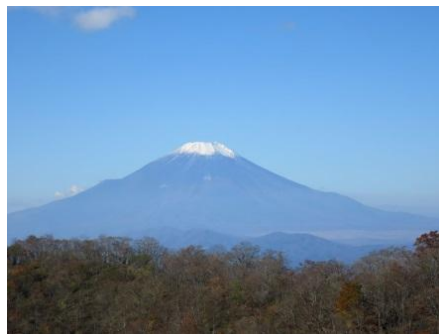


三つ目の堀山茶屋に着く。一角だけ展望が開け、木の間からくっきりと富士山が見える。後から思い出すとほんの少し見えたただけだが、初めてコースから見えた富士雨に感動を感じる。それもつかの間、又きつい登りが始まる。徐々に展望が開け、花立山荘まで来て振り返ると、富士山、箱根、伊豆半島、相模平野の大パノラマが楽しめる。ここで少し休み景色を楽しむ。



更に登りが続く。初のピークの塔ノ岳まで直ぐだと思っていたが、地図を見ると、登山口からの標高差が1,200mある。金剛山や六甲山気分であったが、倍近くの標高差だ。しんどいはずだ。

塔ノ岳の山頂は360度の大パノラマだ。西の正面には富士山、南西には伊豆箱根、南に相模湾、東は関東平野、そして北にはこれから行く、丹沢山や蛭ヶ岳が見える。少し霧もあるが、山麓の中程ま



(塔ノ岳から、手前丹沢山、奥蛭ヶ岳)

では紅葉しているようだ。富士山を堪能してから丹沢山へ向かう。

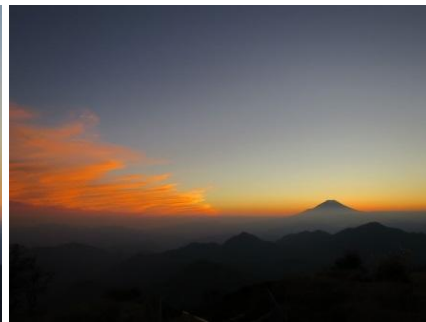
地図で見る以上にアップダウンがある。折角登ったとおもったら、また下る。尾根からの景色が少し気休めにはなるが、結構きつい。もう少し早いと紅葉の綺麗なコースと思われるが、今は落ち葉と

なっている。途中の鞍部の景色も中々のものだ。

丹沢山の山頂は周囲に樹林があり、あまり景色は見えない。ここに百名山の標識がある。が、丹沢主脈の塔ノ岳、丹沢山、蛭ヶ岳のどれがもっとも相応しいか、難しいところだ。少し休み蛭ヶ岳に向かう。山頂は直ぐそこに見えているが、こちらのアップダウンの方がきつい。どんどん下って行ってもう終わりかと思うと、また登り始める。登山口から蛭ヶ岳までの標高差は1,400m程だが、累積では2,000m近くなるような気分だ。

漸く蛭ヶ岳に着く。真正面に富士山がで〜んと構える。少し雲が出てきたのと、靄が強くなっている為、少し写真になりにくい。小屋で聞くと、台風の影響で雲が近づいているとのこと、当初2日とも快晴の予定が、中々上手く行かないものだ。しかし、考えるより先に、まずビールを飲む。冷蔵庫から出してきた缶ビールだが結構冷えていて美味しい。やはり歩いた後はビールだ。あつと言う間に空になり、追加する。最初は、昼下がりの心地よい気分であったが、だんだん冷えてくる。小屋に入り布団に入る。

突然、夕日が落ちる、と言う声がする。まだ4時を少し過ぎた頃だ。日の入りまでまだ30分以上あるはずだが、ダイヤモンド富士の時期で、富士山の頂上付近に日が沈む。そのため日の入り時間より20分以上も早く日が沈む。慌てて外に出ると、陽は既に富士山の陰に入っていた。まあ仕方無く、それでも、日が沈むまで外にいる。



暗くなると寒さが身に凍みる。小屋に戻りストーブにあたる。その内に夕食が始まる、が、パック入りおでんを温めただけのおかずは何種類かの漬け物とご飯だ。味噌汁もない。まあ、男一人でやっている小屋だからこんなものか、と思いながら食事を済ます。次に来るとすれば、素泊まりでいいのかもしれない。ついでながら、朝食は味噌汁とご飯と漬け物である。

窓からみると夜景が綺麗だ。外に出て写真を撮るが、手ぶれで綺麗な写真にはならない。東京から富士山の麓まで360度の夜景に、満天の星だ。小屋の管理人は明日は曇のようだと言っていたが、この調子ならご来光と朝日に映える富士山が楽しめるかもしれないと期待しながら寝る。

翌朝、小屋の周囲はガスで何も見えない。台風の影響で、午前中は雲が切れないという。天気が良ければ檜洞丸から西丹沢に降りようかと思ったが、雲の中では仕方ない。それに、西丹沢でバスを2時間以上待ち、車までは、そこから更に2~3時間必要だ。少し安直だが同じ道を引き返すことにする。

丹沢山まで来たが何も見えない。歩き始めは、ゴアテックスも濡れてきたが、徐々に濡れなくなる。塔ノ岳辺りまで来ると雲がだいぶ晴れ、富士山も上の部分を除き、姿を現してくる。毎度のパターンだが、山を下りる頃になると天気が回復してくる。いつものことで仕方無いと思いながらも、やはり山は天候次第だ。大倉の駐車場に着いた頃にはよく晴れていた。また、リベンジしないといけない山

が一つ増えた。

<参考タイム>

(11/4) 7:10大倉駐車場→8:35堀山の家(休憩)→9:35金冷シ→9:55塔ノ岳(休憩)→11:00丹沢山(休憩)→12:15棚沢ノ頭→12:55蛭ヶ岳

(11/5) 6:45蛭ヶ岳→7:45丹沢山(朝食追加)→8:45塔ノ岳(休憩)→11:10登山口